

ふるさと再発見！親子で出かけよう！学ぼう！地域のいいところ探検隊！

雲南市田井交流センター

1 田井交流センターの概要

斐伊川本流へ西から流れ込む深野川の流域と斐伊川の西岸に面する地域が「田井」。田井地区は、平成24年12月末現在、人口681人、高齢化率36.6%の地域である。

平成2年に田井公民館がスタートし、20年間の公民館活動を経て、平成22年4月、雲南市では一斉に「公民館」から「交流センター」へと名称が変わった。

公民館時代の支柱は『生涯学習』だったが、『生涯学習』『地域福祉』『地域振興』の3本柱を中心に据え、地域自主組織の活動拠点施設として「交流センター」へと移行した。

2 事業の概要

(1) 事業のねらい

田井交流センターとなって新たなスタートを切ったが、地域の5年後の姿を見据えた将来計画図『田井地区振興計画』策定のため、住民アンケートを取ったところ、非常に深刻な過疎化へとつながる危機が浮上。

「20代・30代・40代の親世代は、仕方なく住んでいる。折あれば利便性の高い連担地への移住を考えている。」地域の良さを子どもに伝える一番身近な存在である親世代がこのような認識では、今後の地域に明るい未来は望めない。「歯止めをかけるのは今しかない。」との見解から、『古事記編纂1300年』の機運に乗り、古事記ゆかりの地域資源があふれるふるさと田井をもっと知り、良さに気づく機会を提供することで、地元を誇りを持ち、子どもから高齢者まで一緒にふるさとへの愛着を育てていこうと考えた。そして、田井の素晴らしいところ・良さをみんなでも熟知し、未来へ引き継いでいこうというねらいを持つことにした。

(2) 具体的な取組

ア 地域探訪事前準備（第1弾）

田井小学校の北側にある深野城址（通称：城山）登山のための草刈り・倒木処理・枝切り・道付け作業

期 日：平成24年11月25日（日）

参加者：5名

※ 詳しくは、田井地区振興協議会のブログをご覧ください。

http://unnan40.blogspot.jp/2012_11_01_archive.html



イ 意見交換会（第1弾：若者世代）

期 日：平成25年1月27日（日）10時から

場 所：田井交流センター 会議室

参加者：12名+8名（子ども）

内 容：「田井地区のいいな！」「田井地区でいやだな！」と思うところに『?!』を付箋に書き出すラベルワークで分かち合いながら話し合った。「小学校が統合されたら…どうする?!」のテーマでも、小学校への思いを話し合った。その結果、次のような意見が出てきた。

〈良いところ〉地域のつながりがある。自然が豊か。静か。まとまりがいい。人が温かい。子どもたちが素直で何事も一生懸命。地域が何事にも協力的。住んでいて安心。

〈嫌なところ〉若者間の交流が僅少。交通の便が悪い。閉塞感がある。近所舅が煩わしい。銀行がない。





座談会后、たこ焼きパーティをしながら、おしゃべりしているうちに、若者たちの中には、田井地区で何かアクションを起こしたい！と考えている人もいることが分かった。

ウ 田井小学校「ふるさと探検学習」の取組紹介 場 所：田井交流センター ロビー



田井小学校の児童が、社会科の授業で『地域探検』と称して田井地区内を巡り、高齢者や地域の方々にお話を聞いたり、様々な体験をまとめたものを貼り出し、地域の方へ披露したりした。「こんなところがあるのか」と、地区内の名所を知らない大人も少なからずいて、「一度行ってみよう！」との発言もあった。

エ 地域探訪事前準備（第2弾）

登山道整備（杭打ち・階段付け）

※ 詳しくは、田井地区振興協議会のブログをご覧ください。

http://unnan40.blogspot.jp/2013/02blog-post_12.html

期 日：平成25年2月11日（祝）

参加者：5名（第1弾とは違う顔ぶれも）





3 事業の成果と課題

- (1) 数年前から地区民の一部で、深野城址跡（通称：城山）への道の荒廃に歯止めをかけ、小学生が地域探検に行けるように復活したいとの声が上がっていたが、なかなか取り組む体制が整わなかった。今回この事業を受けて、振興協議会の環境部会と田井教育振興会の有志で話がまとまり、道の修復に着手。一応、登れるようになった。

今後、段々をつけ、階段状に横木を設置し、小学生でも高齢者でも登りやすくし、『田井のよいところ』の一つとして、親子で区内探検時に登る計画を予定している。

- (2) 若者世代を集めた座談会を開催すると、住みやすさ等の良さを十分に知った上で、住み続けたいと思っている人がわずかながらもいることが判明した。

しかし、小学校の統合など、問題や課題は山積みである。その中で、振興協議会組織に若者だけの部会を作ってほしいとの要望も出た。これから度々この座談会を継続し、若者の活躍の場を模索しながら作っていきたいと思う。

4 今後の方向性

「やりたいことがなくはないが、はっきりと見えてこない。」「自ら進んで何か活動しようという思いのレベルは低い。」「独身高齢者の増加を身近で見ると、自分も…と不安。」といった独身若者たちや若者家族が増加傾向にある。このことを踏まえ、田井で暮らすメリットを若者・子どもたち自身が気づき、田井で暮らし続けたい！という思いを築いていけるようにしたい。そのために、地域探訪・地域資源発見・意見交換会を繰り返す中から、現段階では希薄な若者間の横の繋がりを強化し、世代を超えた縦の繋がり、住民間のきずなを太くしていきたい。